

第8回理科系班OB会開催 昨年と同じ19人参加

第8回上田高校理科系班OB会が8月26日、銀座の「塩梅」で開かれ47期から93期の19人（昨年と同じ）が参加した。毎年、8月の最終日曜日に同じ場所でやっており、参加者は長野市、上田市、小諸市、岡谷市、北杜市から6人と広範囲になっている。

最初に、丸山瑛一氏（51期、工学博士、理化学研究所）による「ナノテクうらばなし」の小講演があった。毎年、港区台場でナノテク展をやっており、昨年10周年を記念して同氏が編集責任者となり「ナノテク年表」を作った。

年表作成にあたって、いくつか留意した点のうち1番は、ナノテク分野における日本の貢献を明らかにすること。例えば世界的なナノテクブームの原点になったのは米国クリントン大統領が2000年に発表したナノテクノロジー国家戦略（NNI）とされているが、その先鞭は1992年に丸山氏がリーダーとなり通産省がスタートした国家プロジェクトであり、米国に行き研究内容を説明したという。

ナノテクとは基盤技術であって実用化には長い開発期間が必要だが、これこそ今後の日本が目指して周辺各国の容易な追従を許さない戦略に合致した分野といえるという。

丸山氏は「特許権の有効期間は出願から20年間はけしからん。製品化して20年間位でないと、開発者がかわいそうだ」と、自らの液晶の特許権が切れた翌年にシャープが製品化したことを明かした。

また、終了後参加者が「いい話でしたね」と言うと、「イヤ、入口だけですから」と奥の深さを示した。

「ナノテクとは」ナノメートル（10のマイナス9乗メートル）は原子が数個並んだ長さで、物質が固有の性質を示し始める大きさ。このスケールの材料を観察・操作・制御する技術がナノテクノロジー（略してナノテク）で、20世紀の後半から急速な進歩を遂げた。（ナノテク年表より）

石井則男（64期）

